

大学と現場をつなぐ 学校支援ボランティアのカタチ



日時

2014年 2月 4日 (火)
14:00 ~ 16:30 (受付 13:30 ~)

会場

ホテルアソシア静岡カトレア (静岡県静岡市葵区黒金町56番地4階)

内容

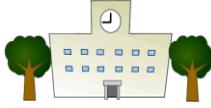
事例紹介 | 静岡大学教育学部における学校支援ボランティアの取り組み

先進的な学校支援ボランティア事例の調査報告

ラウンドテーブル | 学校×大学生×大学による「学校支援ボランティア」をよりよくするためのディスカッション

文部科学省「教員の資質能力向上に係る先進的取組支援事業」シンポジウム
～大学と現場をつなぐ学校支援ボランティアのカタチ～

学生の学びを支える 「学校支援ボランティア」を目指して



静岡大学 静岡市教育委員会

1

1 学校支援ボランティアのキーワード

【主体性】 【ニーズ】
【システム構築】 【質保証】

2 求められてきた社会的状況

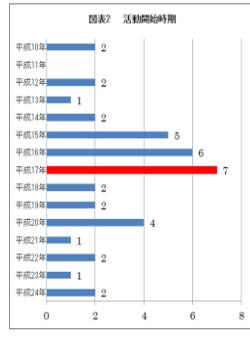
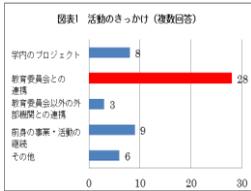
1990年代 **地域の住民・保護者たち**による学校支援ボランティア
1997年～「**フレンドシップ事業**」等による**学生の「学校現場」への参画**
2002年～学校の**完全週五日制**等による**ボランティアの機運の高まり**
2003年 全国100地区、73の大学で「**放課後学習チューター事業**」
2005年 中教審答申「**新しい時代の義務教育を創造する**」
2006年 中教審答申「**今後の教員養成・免許制度の在り方について**」

2

3 「学校支援ボランティア」全国調査より

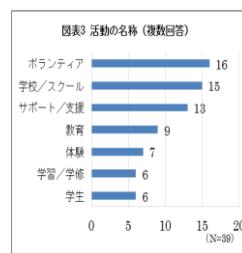
2012年10月 全国の国公立大学
教育学部、およびそれに類する
学部からの回答
(N=39)

① 活動のきっかけ

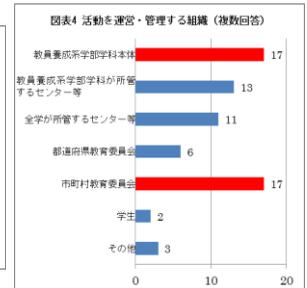


3

② 活動の名称



③ 活動の運営・管理組織

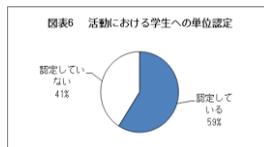


4

④ 活動の対象校種



⑤ 活動の単位認定



5

近年の「学校支援ボランティア」の位置づけやニーズ

学生・・・現場での**主体的・実践的な学習機会**
大学・・・大学と現場を**往還する新たな方策**を探る
学校現場・・・「**細やかな支援**」等、**多様な学生生活**用
教育委員会・・・「**学校支援ボランティア**」人材の**期待**

***未来の教師を育てたい**

文科省・・・養成段階での「**学校現場体験**」の重視
(平成24年8月の中教審答申)
学生のボランティア活動の推進
(平成25年5月 教育再生実行会議)



6

4 静岡市の「学生スクールボランティア」

【ねらい】

- ・静岡市幼稚園、小・中学校の教育課程実施の充実を支援
- ・教職志望者の開拓および資質能力の向上

【実施の内容】

学校が教育活動を営む上で、学生の補助を必要とするものについて、学生が主体的な意欲にもとづき“ボランティア”活動を行う。

＜具体的な活動例＞

- ・授業指導の補助
- ・特別に支援が必要な児童生徒への補助
- ・放課後における学習相談や遊び
- ・部活動や校外活動の補助
- など

【現在連携している大学】

静岡大学 静岡県立大学 常葉大学 東海大学海洋学部 静岡英和学院大学
常葉大学短期大学部 東海大学短期大学部 静岡英和学院大学短期大学部

7

【実施までの流れ】

(1) 学生スクールボランティアの募集

静岡市教育委員会が各園・小・中学校に必要とするボランティアを調査し、取りまとめる。その後、連携大学に「学校スクールボランティア一覧」を送付し、ホームページにも掲載する。

(2) 学生スクールボランティアの派遣

学生は活動を希望する学校を自ら選んだ上で、「静岡市学生スクールボランティア申請書」に必要事項を記入し、大学窓口に提出する。大学は、学生に注意事項を順守して活動する意思があるとみる場合、申請を受理する。

(3) 学生スクールボランティアの決定等

学校は、申請書を提出した学生に対して、活動内容の説明を行い、管理職による面接により適切と判断した場合、学生に活動を依頼する。学生は在籍する大学に「静岡市学生スクールボランティア採用決定報告」を提出する。

8



↑ スクールボランティア一覧表
案内のしおり(静岡市教育委員会)



学生ボランティアの手引き(静岡大)→

9

5 静岡大学の「学校支援ボランティア」

(概要)

- ・平成15・16・17年前後に、実践センターが窓口
*静岡市 16年(63名)→17年(96名)→18年(161名)
- ・24年度実績は、派遣機関数が54機関(幼、小、中、高、特支他)、参加学生数がのべ243名であった。
- ・平成21年度から単位認定の制度を設ける。
- ・近年、ボランティア登録システムの導入、「手引き」の改訂、学生の間接報告等の改善を行う。

〈強み〉

- ・本活動に、主体的に参加する多くの学生
- ・大学と、活動校・教委との良好な関係の継続

10

6 「学校支援ボランティア」の現状と変化

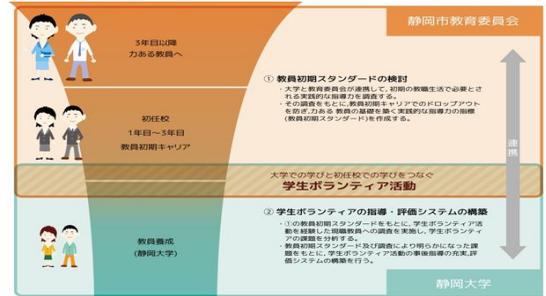
- 学生・学校等のニーズの多様化
- 本活動における学生の学びの保証
- 本活動の位置づけの再確認



- ① 支援(システム)の充実の必要性
- ② 学校、教育委員会との次の連携
- ③ 開設した教職支援室とのつながり

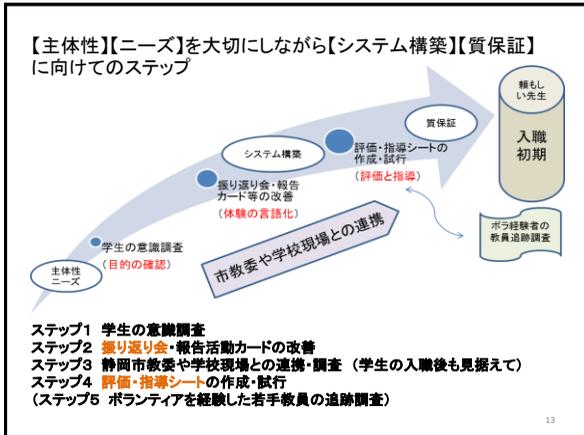
11

7 静岡版「教員養成全般」や「入職後」も意識した「学校支援ボランティア」の検討

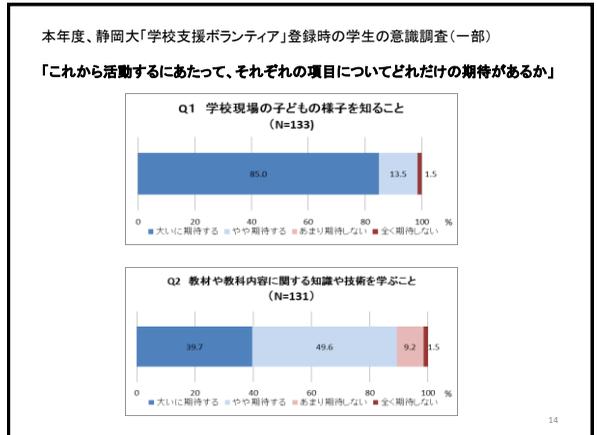


「教員の資質向上に係る先導的取組事業(文部科学省)」静岡大学・静岡市教育委員会

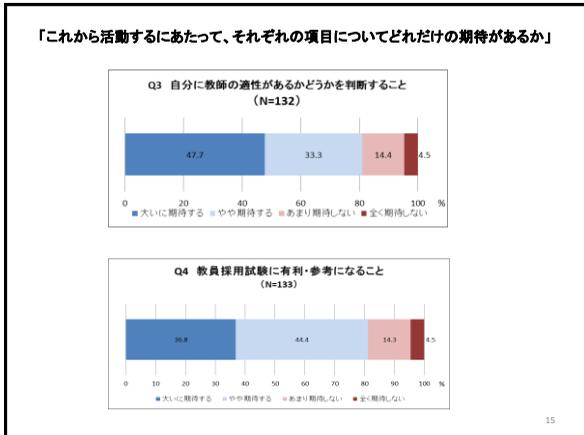
12



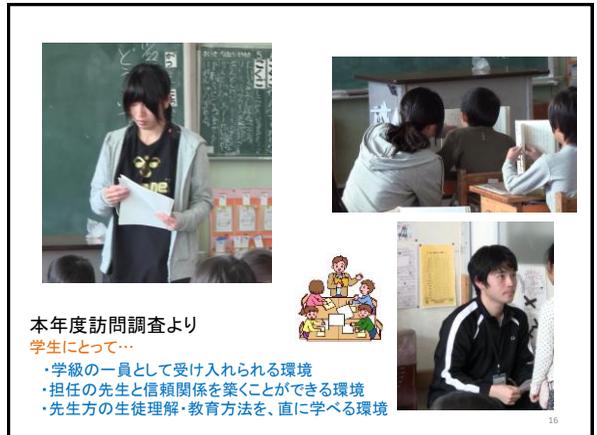
13



14



15



16

「学校支援ボランティア 振り返り会 試行①」

第1回振り返り会
 日時 平成25年7月31日
 13:10～14:10
 教職支援室(教育L棟1階)

「5～7月の振り返り」

- 1 自己紹介
- 2 振り返り会について(山本)
- 3 各校の報告・振り返り
 *グループで30分間程度
- 4 代表の学生の感想
- 5 終わりの話(実務家教員)

評価シートの記入後に、解散

17

「学校支援ボランティア 振り返り会 試行③」

第3回振り返り会
 日時 平成25年12月18日
 13:00～14:20
 教職支援室(教育L棟1階)

「11月～12月の振り返り」

- 1 自己紹介
- 2 振り返り会について(山本)
- 3 評価シートの確認 3分
- 4 各校の報告・振り返り
 *グループで50分間程度
- 5 各班的報告
- 6 教員の話(実務家2名)
- 7 総評(代表の学生)

18

【学校支援ボランティア 評価シート 7/31】 名前 _____ 専修 _____

活動で気付いたことを、具体的に書いてみよう。 A 自分 B 仲間から (すべてを埋める必要はありません)

学校・学年	先生方の態度やふり合い	先生方の知識・技能・方法	先生方と関係(教員・役員)	先生方と保護者(地域)
1. 教師の授業観・価値観				
※やるべきこと、しないこと、 ばつらいなこと				
2. 授業後のやり取り関係				
※学校に居らず、教員・ 教員に対して				
3. 学びの理解				
4. 学習指導				
5. 授業実践				

19

9月～10月 ①観察・実践したこと、②学んだこと・身につけたこと③これからすべきこと

静岡太郎 〇〇小 〇年〇組	教員の 仕事		
	生徒指導・学級	授業	学校全体・行事 その他
子ども	①出来事や実践 ②学んだこと・身につけたこと		
特別な支援 を要する 子ども			
教職員			
保護者 地域の人			
③これから すべきこと	【長いスパン】	【すぐに】	

20

11月～12月 ①観察・実践したこと、②学んだこと・身につけたこと③これからすべきこと

年 組	教員の 仕事		
	生徒指導・学級	授業	学校全体・行事 その他
子ども	「(何)を意識する 自分だけの意見も 受け入れてくれる (何)がよい」	べの動きと表情の観察 「(何)がよい。積極的 に意見を言う」	他学年の交流を通して 新たな視点を獲得する。
特別な支援 を要する 子ども	(主観的に)笑顔で自分の成長を喜んでいるのがあった。	自分の意見も積極的に発信し、 積極的に意見を言う。	掃除に学ぶ会を通して 新しい掃除の仕方を発見、 生徒たち
教職員	はまの先生	子どもの笑顔。得意顔を見て、 話してきて。	給食の時間の余裕の量に 対して指導(他者視点)が 子どもにやわらかく行われる。
保護者 地域の人			先生に協力的な保護者 生徒・大人の日常の観察の 大切さ(語りかけの重要性)
③これから すべきこと	【長いスパン】 支援者が当該児童と関わりを深め、 話し合えるようになる。	【すぐに】	ホウレンソウの信頼関係

21

11月～12月 ①観察・実践したこと、②学んだこと・身につけたこと③これからすべきこと

年 組	教員の 仕事		
	生徒指導・学級	授業	学校全体・行事 その他
子ども	「(何)を意識する 自分だけの意見も 受け入れてくれる (何)がよい」	べの動きと表情の観察 「(何)がよい。積極的 に意見を言う」	他学年の交流を通して 新たな視点を獲得する。
特別な支援 を要する 子ども	(主観的に)笑顔で自分の成長を喜んでいるのがあった。	自分の意見も積極的に発信し、 積極的に意見を言う。	掃除に学ぶ会を通して 新しい掃除の仕方を発見、 生徒たち
教職員	はまの先生	子どもの笑顔。得意顔を見て、 話してきて。	給食の時間の余裕の量に 対して指導(他者視点)が 子どもにやわらかく行われる。
保護者 地域の人			先生に協力的な保護者 生徒・大人の日常の観察の 大切さ(語りかけの重要性)
③これから すべきこと	【長いスパン】 支援者が当該児童と関わりを深め、 話し合えるようになる。	【すぐに】 信頼関係を深め、 話し合えるようになる。	

22

学生の参加の仕方

A よい意味で自分の思いを抑えても、学校・学級に貢献したいという意識で参加

B 学校・学級で、吸収できることを、できるだけ吸収していきたいという意識で参加

C 自分ならこうしたいと考えながらも、学校・教員の協力者として参加

自律して、学びを進める学生たち

23

8 今後に向けて

～ 大学と現場をつなぐ学校支援ボランティアのカたち ～

- 学生と学校現場
 - ・学校現場における指導・評価を生かした活動
- 大学・センター
 - ・教職支援室と連携した振り返りシステムの充実
 - ・様々なニーズに対応した学生への支援
- 教育委員会
 - ・効率的な派遣システムの実現
 - ・教員養成大学等との連携強化
- その他(研究・調査の継続)



ご清聴ありがとうございました

24

平成26年2月4日(火)

文部科学省「教員の資質能力向上に係る先導的取組支援事業」シンポジウム
～大学と現場をつなぐ学校支援ボランティアのカタチ～

先進的な「学校支援ボランティア」に関する調査

— 佛教大学の教育職インターンシップを中心に —

望月 耕太(静岡大学)



報告の内容



1. 調査の目的・方法

2. 調査対象大学の概要



3. 佛教大学の事例

4. おわりに



1. 調査の目的・方法



1. 調査の目的・方法①

目的

「学校支援ボランティア」が参加学生の教員としての
資質能力を形成する活動になるように改善する。

調査方法

先駆的な「学校支援ボランティア」を実施している
大学を訪問し、活動内容に関する聞き取り調査
を行う。

1. 調査の目的・方法②

調査の視点

- ・各大学の活動内容
- ・教育委員会との連携協力
- ・学生に対する指導や評価の方法
など



調査対象大学



2. 調査対象大学の概要



2. 調査対象大学の概要①

(1) 島根大学 「1000時間体験学修」

- ①学校教育体験領域 (340時間)
教育実習等
- ②臨床・カウンセリング体験領域 (150時間)
カウンセリング実習や特別支援教育体験
- ③基礎体験領域 (510時間)
学校や社会教育施設における学習支援

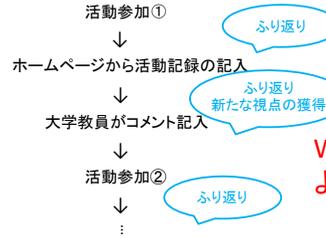
必修
400時間

活動時間数の多さ



2. 調査対象大学の概要②

(2) 大分大学 「まなびんぐサポート」



Webの活用による省察



2. 調査対象大学の概要③

(3) 佛教大学 「教育職インターンシップ」

大学と包括協定
京都府教育委員会、京都市教育委員会



大学と教育委員会の連携

学校の下承が得られれば活動開始



3. 佛教大学の事例



3. 佛教大学の事例①

大学教員が各学校に継続的に訪問

- ①活動開始前 学校の様子や大学に対する要望を確認
各学校と学生のマッチング
- ②活動期間中 活動先におけるトラブルの対応
学校と学生の意見を聞き取る
- ③活動終了後 学校に学生の活動状況を聞き取る



3. 佛教大学の事例②

①活動開始前 学生と活動先とのマッチング



- ・ニーズのミスマッチの防止
- ・活動先からの信頼



3. 佛教大学の事例③

事前指導

大学教員から学生に伝達

- ・活動の成功事例と失敗事例(理由を含む)
- ・問題となりうること
例、特別支援を要する子どもの対応
守秘義務



3. 佛教大学の事例④

②活動期間中 学校と学生の意見を聞き取る

学校と意見交換

→その時々学校の支援ニーズを把握

学生と意見交換

→活動に対するニーズを把握

・ニーズの
ミスマッチの
防止



3. 佛教大学の事例⑤

活動の効果(学生にとって)

- ・教師としての構えが形成される。
- ・教師になるまでに身に付ける必要のある能力・知識を理解する。
- ・教職に対する不安が大きくなる。
教師の仕事の大変さの理解、適性の認識など
→いわゆるリアリティ・ショック



3. 佛教大学の事例⑥

活動の効果(大学における学びの深まり)

①大学のゼミで特定の教育課題を取り上げ、
その課題に関連する教育方法を考える



②活動先で、授業中にその教育方法を試す。



③大学のゼミでその教育方法の結果を報告する。
教育方法の見直しや新たな教育課題について話し合う。

※活動先から、校内研修に活用したいとの声も



3. 佛教大学の事例⑦

課題

活動頻度が高い学生の活動疲れが発生している。

学生のみ活動の振り返りは、学習効果がない。



振り返りに活動先の教師、大学教員の参加が期待される。



4. おわりに



4. おわりに

現状の課題①:

学生も学校もお互いに要望が言いにくい

⇒**学生と各学校のニーズを調整する大学の役割**

大学側のスタッフの確保、各学校にボランティア担当の教員配置

現状の課題②:

学校支援ボランティアが他の教育活動と結びついていない

⇒**現場の知と大学の知が結びついたふり返りの場**

既存の教員養成カリキュラムの見直し、大学と教育委員会の共催の授業の実施

ご清聴
ありがとうございました

望月 耕太(静岡大学 大学教育センター)

email: okmochi@ipc.shizuoka.ac.jp

2014/2/4

ボランティア支援システムの紹介

静岡大学教育学部
塩田 真吾

Shizuoka University

ボランティア支援システムの紹介

▶ **ボランティア支援システム**

学校・教育委員会と大学生が、要望のマッチングをスムーズに行うことができ、学生の活動のふりかえりを促すことができる。

— 大学向け(管理者用)ページ
— 学校・教育委員会用ページ
— 大学生用ページ

2
Shizuoka University

ボランティア支援システムの紹介

教育委員会・学校向け支援システム

- ▶ **教育委員会、学校が要望(時期、人数、内容等)を登録し、学生とのマッチングを支援。**
- ▶ **学校と大学生とのやりとり(ふりかえり)や連絡など情報の共有を支援。**

(教育委員会・学校向け) 基本情報の登録

※大学側は運営者としてすべての登録情報を閲覧可能

Shizuoka University

ボランティア支援システムの紹介

教育委員会・学校向け支援システム

学校の要望の登録 応募状況の詳細

Shizuoka University

ボランティア支援システムの紹介

大学生向け支援システム

- ▶ **学校の要望一覧を検索でき、簡単に応募できることで、学校とのマッチングを支援。**
- ▶ **活動をふりかえりや自己評価などの機能を有し、学校、大学と情報を共有することも可能。**

学校の要望一覧の表示・検索 ボランティア募集への応募

Shizuoka University

ボランティア支援システムの紹介

大学生向け支援システム

活動のふりかえりや自己評価機能 自己評価の編集

Shizuoka University

ボランティア支援システムの紹介

大学生向け支援システム

現在、ベータ版をテスト運用中

活動のふりがえりと自己評価機能



SHIZUOKA UNIVERSITY



教育委員会・大学の連携による「学校支援ボランティア」の指導・評価システムの構築
—「教員初期スタンダード」をもとにした資質能力向上を目指して—

委託事業成果報告書

発行日	平成26年3月13日
事業実施者	梅澤収・村山功・菅野文彦・杉山孝・山本真人・鈴木正美・齋藤朗三・ 渡邊美恵子・益川弘如・塩田真吾・長谷川哲也・島田桂吾・望月耕太・ 小泉憲明（静岡市教育委員会）
報告書編集	山本真人・益川弘如・塩田真吾・長谷川哲也・島田桂吾・望月耕太
資料作成協力	酒井郷平（静岡大学大学院教育学研究科1年生） 雨宮稜（静岡大学大学院教育学研究科1年生） 伊藤亜佑子（静岡大学教育学部4年生） 山口聖菜（静岡大学教育学部4年生） 押尾妙子（静岡大学教育学部4年生） 鳥山裕香（静岡大学教育学部4年生） 加藤宰（静岡大学教育学部3年生） 鈴木扶美（静岡大学教育学部3年生）

※本報告書に関するお問い合わせは、shizuoka.volunteer@gmail.com までご連絡ください。